

HOYOG 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1993. 3. 66号

本廟で毎月、開闢法要

総合計画募財も一億八千万円に

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立、総合復興計画の募財が進められている中、二月七日には大谷本廟で神戸別院永代開闢法要が勤められた。開闢法要は毎月一回(第一

日曜日。但し変更の場合あり)、午後一時半から大谷本廟礼拝堂で勤められており、楽入りで総修される。この日も参拝者は本廟会館事務所ロビーの総合案内所で受け付けを済ませ、教区職員案内で礼拝堂へ移動、土基輪番の導師で律曲讃仏偈が勤められ焼香した。続いて土基輪番が「改築にもとめない、有難い懇念を永代経として上納いただきました。間法道場の神戸別院が立派に新しい装いとな



大谷本廟礼拝堂で焼香する参拝者

「ふだんあまり聞きなれないお勤めでしたが、お参りしてありがたかった」という感想は夫婦で参拝の澤本弘さんと敏子さん(多紀組正福寺)。澤本さんは「今までお寺にもいろいろさせていただき、今回別院改築の話聞いて元気がうちひとつ協力を、おかげさまでという思いで」と話していた。

教区内各寺院への懇志依頼をはじめ募財が進められているが、既に依頼懇志・協賛懇志を完納した寺院や、最高で三割を越すなど超過進納の寺院もあり、院号の申請件数は七百九十四件、寺院懇志が一億六千七百万円、納骨所懇志が千四百七十万円など、総額で一億八千七百万円の懇志が寄せられている(数字はいずれも二月八日現在)。中には教区外から別院を訪れた参拝者の懇志も含まれている。

建設・推進委員会では、建築部会で建設計画の検討が続けられ、今後、総務部会、顧問会、常任委員会などで募財など今後の具体的な取り組みについて協議し、委員会検討する。

また、本願寺参与や各企業などに幅広く協力を求めていくことにしている。



この欄に書かせて頂いていいの、かどうか、私事で躊躇しながら、

◆亡き兄を病室に見舞った時、意識はもう定かでないかと思えます。その兄が突然「ああ報恩講さんが始まる、もう始まる」と言いながら「わし失礼して上がらしてもらいます」(登礼盤のことらしく)「香盒：香盒は…」とさがす素振り、しばらくして絶えだに「ゼンシヨミーダァー入道場」で大きく息をつき「フウイー」。「疲れたちよつと休ませてもらいます」と言うので、後をうけて小声で「弘願時迎」とお唱えすると、口だけを動かしながら「お念仏称えてよ、お念仏のほかに何があるっ」と手をあわせ、微妙にお念仏称えながらまた昏睡状態に入り、往生させて頂いたのはそれから間もなくでした◆「ただお念仏」とお聞かせ頂いておりましたが、兄は念仏のみをのこして往ってくれました。二月になり兄の命日が近づくと病室にただよったお念仏の音が、鮮明によみがえってまいります。(藤野昌俊)

教区だより		3・4月	
6日(土) 第一土曜仏教講座 林 智康師	1時半	15日(月) 研修指導員部会	2時半
7日(日) 別院仏婦定例法座 総永代経開闢法要	1時半	17日(水) 総代会幹事会	10時半
8日(月) 教務所長会 青僧会役員会	本 山 5 時	18日(木) 常備会	10時半
9日(火)~10日(水) 豊岡教堂永代経法要 藤栄行信師	豊岡教堂	19日(金)~21日(日) 別院彼岸会 楠原純孝師	1時半
10日(水) 建設・推進委員会常任委員会 建設・推進委員会	10時半 1時半	22日(月) 別院責役・総代会	3 時
12日(金) 社会福祉専門委員会・社推協常任委員会	10時半	23日(火) 光明園物故者追悼法要	長 島
13日(土)~14日(日) 仏社連盟大谷一泊研修会	大谷本廟	24日(水) 教区会	10時半
14日(日)~16日(火) 別院常例法座 岩田義文師	1時半	25日(木) 教化組織連絡会	1時半
		26日(金)~27日(土) 教区寺院子弟研修会	別 院
		30日(火) 組長会	10時半
		4月3日(土) 第一土曜仏教講座 野々村智剣師	1時半
		4日(日) 総永代経開闢法要	大谷本廟

テレホン法話パンフ配布



ではこのほど、教区青年僧侶の会と協力してテレホン法話促進パンフレットを作製し組長事務所に配布した。青僧会では、今年も三月末に元町の神戸大丸前でのパンフレットを利用して街頭伝道を行う予定にしている。パンフレットご希望の方は、教務所までご連絡ください。

本山・少年連盟が鉛筆作製

カレンダーも

青少年への教化活動の活性化を図っている本派少年連盟では、このたび、日校活動などで利用してもらおうと、写真のようなシンボルキャラクターの絵柄入り鉛筆と消しゴムを作製した。また、毎年好評を得ている「らくがきカレンダー」(来年度用)も完成し、申し込みの受け付けを始めた。同連盟では「日校活動の



門徒推進員 中央教修

—開催日のお知らせ—

- 平成五年度の門徒推進員中央教修開催要項ができ、先ごろ組長事務所に配布しましたが、五年度六回の開催期日は次の通りとなっております。
- 定員に達した場合は締め切り日(三週間前)以前でも受け付けを締め切ることがありますので、申し込みの参考にしてください。
- 尚、対象者の年齢は五十五才未満、募集人員は五十五人(一開催につき)となっております。
- 第九十三回 5/15(土) 18(火)
 - 第九十四回 7/3(土) 6(火)
 - 第九十五回 8/28(土) 31(火)
 - 第九十六回 10/2(土) 5(火)
 - 第九十七回 11/27(土) 30(火)
 - 第九十八回 平成6年 3/5(土) 8(火)

お彼岸用

「法」を配つて下さい。

新しくなった「法」シリーズのお彼岸用を先月の教区新報と一緒に送りました。今回もご門徒さん向けのパンフレットとしてご利用ください。

一部二十円で、百部以上の場合、無料で表紙に寺号を印刷いたします。すでに千部近い申し込みをいただいております。残部が少ないのでお早めに。(広報部)

敬 弔

兼松暁昭師(かねまつ・ぎょうしょう)高砂組西立寺衆徒)一月一日、七十二才で往生。「秀岳院釋暁昭」 窪 靜眞師(くぼ・じょうしん)阪神東組明徳寺住職)一月二十八日、五十一才で往生。葬儀は一月三十一日、明徳寺で。「紫光院釋靜眞」。昭和四十年から住職在職二十七年。

新宗教をどう見るか

生駒孝彰師が 青僧会研修会で講演

去る二月二十一日、教区青年僧侶の会（辻清昭会長）研修会が別院で開催され、京都文教短期大学教授・生駒孝彰師が「現代社会と新宗教」というテーマで講演した。要旨をご紹介します。

幕末から明治維新の第一次、一九四五年以降の第二次新宗教ブームにおける時代の変革期のフラストラーションや貧・病・争といった特徴と違い、第三次はなぜ新宗教なのか分からない。

第三次新宗教の特徴は①地球の終末、地上天国を説く「予言の宗教」（エホバの証人・統一教会・世界救世教・崇教真光）②超能力超自然、霊魂 UFO など「異次元の世界」（阿含宗

・真如苑・幸福の科学）③どこでも説いている「共同体意識」（特に創価学会・霊友会・立正佼成会）④倫理・道徳などの「実践」（念法真教・PL）があげられる。欲張って全部持っているのが、オウム真理教。

予言の宗教は若い人が好きで、合同結婚式で知られる統一教会は大学やバイリンガルなどの英語学校、一和高麗人参などの企業にも入り込んでいる。浄霊の世界救世教はMOA（モア）食品といった無農薬農法や世界中で植林するなど環境問題に取り組んでおり、これは立正佼成会でもやっている。環境問題は宗教界にとつてこれから取り組むべきもの。真宗では煩悩をもった人間が互いの業でという説明や五濁悪世というが、既成の宗教はややもすると説明で終わってしまう。それでは一般にアピールする力はない。

桐山靖雄が始めた阿含宗、伊藤真乘という真言宗の僧侶が始めた真如苑はいずれも不幸の原因は不成仏の霊障という。真如苑は今一番勢いがよく、関西にも高槻の郊外に関西総本部を建て間もなくやってくる。いざれにせよ両方とも霊の問題にする。

仏教の立場で言うと、教義の上で霊がはっきりあるのは真言宗だけ。他の宗派は釈尊の十四無記によってあいまいでありそれとともにに仏教の基本が諸行無常、諸法無我なので認めるわけにいかない。龍大の先生は浄土に往生するのはアラヤ識というがアラヤ識と霊魂はどう違うのか大きな問題。いのちの問題を扱うときも仏教はどうかというわけか死の問題しか扱わない。いのちはいつ始まるかが仏教界でははっきりしない。脳死の問題も人間のいのちはいつ始まるから考えないと充分ではない。中絶の問題も他の宗派がやっているように水子供養で全部終わってしまう。これはよく考えておかなければならない。

いのちの始まりは、浄土真宗の立場からどこにポイントを置いたらいいのかわからないと善導大師の「観経疏」に「自らの業識を内因として父母を外縁として人間は生まれてくる」といっている。そう考えると精子と卵子がひとつになった時にいのちが始まる。したがって中絶は認めるわけにいかないというのが私の考え。

（文責在記者）

若い時に疑問を持って

HO日誌

◆1月27日 別院責任役員・総代会。本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立、総合復興計画画策財について◆28日 仏婦連盟委員総会。活動現況報告その他について。終了後ホテル・シエレナで新年懇親会◆29日 兵庫県民会館で開催された、部落解放基本法制定要求国民運動兵庫県実行委員会第七回総会に、教区から七人が参加。新役員体制が確立され、新会長には同兵宗連議長山崎一朗師（出石組正福寺）が選ばれた◆姫路中組住職寺族同朋講座を光照寺で。講師は久堀弘義師（神戸湊組行願寺）◆網干組住職寺族同朋講座を徳善寺で。講師は井上朋義師（加古川組正願寺）◆30日 播州一円の坊守有志で組織する「はちす会」の新年会に教務所長出席

◆2月1日 都市開教公開講演会を岡山・江並教堂で。足利孝之師（阪神東組安養寺）が「さとりとすくい」



江並教堂で話し合い

と題して往生浄土というこの意味を話した。参加者からは「浄土真宗を一口で言うとはどんな宗教なのか」という質問や「若い人がお寺になかなかお参りしないが」などの悩みが出され、足利師は「宗教の問題とす悪。若い時に疑問をもち寺に参ればよいが、仕事もあり時間的な制約も受ける。年を取って本心に騙さないものは何かに気づいてくる。それをご開山は、ただ念仏のみぞ、とおっしゃったんでしょね。気がつくのに早い人もあれば遅い人もある、だから若い人が参って

くれればよいが、お年寄りが参ってくれば尚結構だと私は思う。なかなか生死の問題は身についてこない。日頃からの育てが大事だと思ふ。だからまず家庭の中にお念仏があるかないか、そこから出発しなければいかんと思ふ」とまとめた。

◆2日 寺婦連盟委員総会。前夜の大雪で出席状況が気になるようすの担当者。終了後ホテル・シエレナで新年懇親会◆青僧会役員会◆3日 4日 近畿教務所長・教区会議長・組長会代表者会を和歌山で◆5日 門徒推進役員会◆神戸・私学会館で行われた「ひよう



佐用組光福寺住職 近藤公瑞さん



入居者と語る近藤さん

老人とのふれあい実践

先ごろ半世紀ぶりに戦争供出の喚鐘が戻った佐用郡南光町の光福寺。住職の近藤公瑞師は伝道院で住職課程を受講、地元の楽器店に務めた。

そこでは事務・営業のほか、用組門信徒大会、その翌年の佐用組仏婦大会でP・Aを担当した。

昨年十二月に楽器店を退職し、父の文郷前任職が理事を務める老人保健施設に相談指導員として着任して

二カ月が過ぎた。同僚からは「僧侶の実態を知った」と冗談がでるほどになり、施設のペースもつかめた。「事務職ではなく入居者とふれあひながらこちらも教えてもらいたい。初心を忘れず毎日が本番という気持ちです」というのが現在の心境。

前任職の「六十才定年」という意向によって、昭和六十年に住職を継職。その頃から宗門内でビハラー活動がクローズアップされはじめた。

「やはり同じ人間、人と人が生活していくということ。今まで機械相手の仕事なのでよいいに人とのつながりを大切にしたい。住職であるがゆえに入居者も安心して話しかけてくれるが、お寺の者がひとりの人間として関わりたい。」

学生時代には仏青連盟の中央委員を務め、光福寺では仏婦主催のサマースタールが二十八年間続けられている。「今まで教区内のいるんな人にお世話になり感謝している。教区とも関わりを持ちやすい仕事になったのでこれからもよろしくお願いします」と最後に語った。 佐用郡南光町 上三河四十五 (広報部)

◆部落解放 宗教者座談会に教区から佐々木良憲、杉本昭典、井上朋義、近藤龍樹、松島法城、前田徳水の各師と担当者出席。この座談会は兵庫部落解放研究所の機関紙「ひようご部落解放」の、宗教と部落問題に関する特集に同兵宗連が協力して行われました。内容は「ひようご部落解放」五月号に掲載される予定です。

◆6日 第一土曜仏教講座。講師は本願寺布教使・瑕丘大愚師。「お浄土をめざして」というお話を聴聞した。

◆7日 永代経開闢法要を大谷本願寺で◆本山での如月忌法要に教区から約二百六十人が参拝。記念講演の後には恒例のぜんざい接待◆8日 建設・推進委員会三役会。募財方法などについて協議◆12日 ビハーラ実践活動研究会員ら五人が「ふじの里」を訪問し個人面談◆津村別院での矯正教化連盟大阪矯正管区支部連絡協議会研修会に教区から八人と担当者出席◆12日 13日 和歌山での近畿六教区仏婦運動推進懇談会に教区から松井委員長らが出席。第

七回近畿ブロック恵信尼様顕彰平和の日の集い（四月二十六日・京都）、第二十二回近畿地区仏教婦人会大会（十月一日・滋賀）などについて◆13日 土基輪番の司婚で坂下健一氏と門中誠子さんが仏前結婚式◆13日 14日 仏壯連盟幹部一泊研修会。講師は野村康治師（大阪教区中島東組瑞松寺）。話し合いでは「遊ぶためなら休みをとるが、仏事のために休みをとる人が少なくなっているのではなか」という講師の指摘に考えさせられたようすの幹部の皆さんでした◆14日 16日 別院常例法座。講師は村井丹師（高砂組蓮教寺）◆17日 本山での青年教化指導員研修に担当者出席。平成五年度仏青連盟活動方針、事業計画などについて。93年全国真宗青年の集い九州大会は七月三十一日 八月一日に福岡で開催される◆17日 18日 総代会一泊研修会を舞子ビラで。講師は中央相談員・西池哲俊師（出石組勝林寺）。三組から組活動の報告があり、話し合いでは小規模寺院の運営、

寺（住職・寺族）と門徒との乖離、経費の問題などが真剣に話し合われた◆18日 新宮組住職寺族同朋講座を潮音寺で。講師は川端正道師（岡山北組報恩寺）◆19日 大阪教区交野組寺族婦人会が団参◆21日 門徒推進員研修会を加古川組教照寺（森本康英住職）で。八十九人が参加。中央相談員・井上朋義師（加古川組正願寺）の「他力本願の教え」と題した基調講演と班別の法座。「そのままおまかせする」という気持ちにはなりにくい。わかつていくけど、なりきれない」「我を離せないから難しいのではないか」など活発な話し合い。一日中雨の降り続く寒い中を、教照寺の総代、仏壯、仏婦の皆さんがお手伝いくださいました◆22日 青年僧侶の会研修会。講師は京都文教短大教授・生駒孝彰師。（二面に関連記事）◆23日 淡路組住職寺族同朋講座を専修寺で。講師は谷川弘顕師（神戸湊組高松寺）◆近畿同朋運動推進協議会常任委員会を京都で。教区から三人が出席。

如月忌法要に260人参拝